

国立大学法人和歌山大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

和歌山大学は、「教員の多様な問題関心に基づく諸活動」、「職員の主体的な職務の遂行」、「学生の学びと大学運営への参加」を励まし支援し、教員・職員・学生相互の信頼関係の下での協働と参画を通じて、「地域を支え、地域に支えられる大学」となることを目指している。第2期中期目標期間においては、紀伊半島を含む黒潮文化圏という歴史、自然、経済、文化を活かした研究活動によって創造された知見を活かし、地域から日本と世界の発展に寄与することを目標としている。

この目標達成に向けて、観光学研究科（大学院修士課程）の設立準備を最大課題として重点的に取り組み、平成23年4月からの設立に至っているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、大学の持つ価値や課題を、大学全体で共有し価値の認識や課題解決へつなげるため「第1回和歌山大学研究集会」を開催し、その成果を和歌山大学宣言『8月4日の誓い～地域とともに持続発展する大学へ～』として全国に向けて発信している。

財務内容については、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）からの大学知的財産アドバイザー派遣や知的財産担当専門職員の配置により、知的財産管理体制を充実強化し、平成22年度の知的財産収入額は147万円となっている。

自己点検・評価及び情報提供については、平成22年4月に、学長裁量経費により、民間企業における広報経験豊富な人材を特任職員（広報マネージャー）として新規採用し、大学広報体制を充実強化している。

教育研究等の質の向上については、学生自主創造科学センター（クリエ）のプロジェクト型学習教育方法が、学部教育レベルにも広がり定着し、『生涯学習力』を培った市民、職業人の養成を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学の持つ価値や課題を、大学全体で共有し価値の認識や課題解決へつなげるため「第1回和歌山大学研究集会」を開催し、その成果を和歌山大学宣言『8月4日の誓い～地域とともに持続発展する大学へ～』として全国に向けて発信している。
- 和歌山県内すべての高等教育機関と連携した「戦略的大学連携事業」による研修を実施したほか、和歌山県、和歌山市との連携交流協定により職員を交流研修員として

和歌山県庁、和歌山市立図書館へ派遣するとともに、受入研修員として当該地方自治体の職員を受け入れ、相互派遣研修を実施している。

- 教員の個人評価については、教員活動状況評価に関する規程及び実施細則の見直しを行い、評価結果を昇給及び勤勉手当に反映させている。
- 平成 21 年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、センター及びサテライトの再編については、産学連携・研究支援センター、地域連携・生涯学習センター、サテライト及び防災研究教育センターを地域創造支援機構の下に置き再編しており、指摘に対する取組が行われている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）からの平成 22 年度大学知的財産アドバイザー派遣や知的財産担当専門職員の配置により、知的財産管理体制を充実強化し、平成 22 年度の知的財産収入額は 147 万円（対前年度比 44 万円増）となっている。
- 科学研究費補助金の申請件数の増加に向けて、研究アドバイザーボードによる申請書の査読、申請初心者に対して「申請の手引き」を作成し、また、「ビギナー向け科学研究費補助金計画調書作成説明会」を開催するなどしている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員の研究プロジェクトに対する評価制度として、学内競争的資金「独創的研究支援プロジェクト」の公募採択に際し、外部評価を取り入れ、審査基準に基づき、厳正に評価・審査を行い、その結果を配分額決定に反映している。
- 平成 22 年 4 月に、学長裁量経費により、民間企業における広報経験豊富な人材を特任職員（広報マネージャー）として新規採用し、大学広報体制を充実強化している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 施設設備を有効活用するため、資産マネジメントワーキンググループにおいて現地調査を実施し、「平成 22 年度施設マネジメント実績報告書」として調査結果を取りまとめ、提言を行っている。
- 和歌山県内の地方自治体等と連携のうえ、海南市で津波避難訓練を実施したほか、広川町で防災教育セミナー、田辺市で出前講座、紀の川市で防災ジュニアリーダー育成講座等を開催している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生自主創造科学センター（クリエ）のプロジェクト型学習教育方法が、学部教育レベルにも広がり定着し、デジタル複合機の新しい活用方法と実装する一連の開発技術を競うプログラミングコンテストにおけるグランプリ獲得等、「『生涯学習力』を培った市民、職業人」の養成を進めている。
- 保健管理センターでは、過去 20 年間に集積した基礎資料を基に、医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士で構成するメンタルサポート室を設置し、さらに、引きこ

もり等を克服した学生によるピアサポートシステムにも組み込み、復帰のための総合的な支援を行っている。

- 「教養・基礎学力の育成」、「主体性(意欲)の育成」、「課題発見・解決能力の涵養」、「豊かな人間性を育む」に重点を置いた就職支援として、「学生の人生の支援と自立・自律プロジェクト」を実施している。
- 「地域」に焦点を当てた共同研究「紀伊半島学」の諸研究の集積について、南紀熊野サテライト5周年事業に併せて報告するとともに、国公立大学の「地域型サテライト情報交換会」を開催し、『大学と地域』との関わりについて議論を深めている。
- 平成22年4月に設置した宇宙教育研究所では、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還映像を、現地オーストラリアで撮影することに成功している。
- 附属特別支援学校では、平成22年度から、和歌山県立医科大学及び和歌山県発達障害者支援センター（ポラリス）の専門職員と連携し、地域で発達障がいを抱える子ども・大人の相談援助システムを構築している。
- 附属中学校では、アトランタのロンクラークアカデミージュニアハイスクールの教員・生徒20名を招へいし、授業交流、全米ナンバーワンティーチャーによる公開授業を実施するなど、特色ある国際交流活動を実施している。
- 平成23年4月から設置された観光学研究科については、研究活動の蓄積、研究基盤の整備等に向けた取組が期待される。